

体育・スポーツ指導力養成プログラム通信

第1号 2017年度スポーツクラブ指導入門について
教育支援センター実地教育部門学校運動部活動指導者育成事業

～体育・スポーツ指導力養成プログラムとは～

学校における体育・スポーツ活動において、安全かつ効果的に指導を行うことのできる、**実践的指導力**、**マネジメント力**の養成をねらいとしたプログラムです。

プログラム修了者には大学認定資格「学校運動部活動指導者資格」を発行しています。

このプログラムに関する詳細は、以下の本事業HPをご覧ください。

<http://cert.kyokyo-u.ac.jp/bukatsu/bukatsu.html>

はじめに

2017年度のスポーツクラブ指導入門は4月26日にスタートし、8月2日の研究発表会をもって、全ての内容を終了しました。右の図は今年度の受講生の内訳ですが、様々な回生、領域から35名の受講生が集まりました。専門とする分野、体育・スポーツに対する関わり方、様々な点で異なる背景を持つ受講生が、子どもたちに運動を教えるという同じフィールドに立ち、感じあったことを共有していく... 様々な意見が交わされた研究発表会での姿は、教員の道につながる階段を1段上った姿に映りました。ここでは、2017年度の授業の様子から、受講生の成長の一端を紹介します。

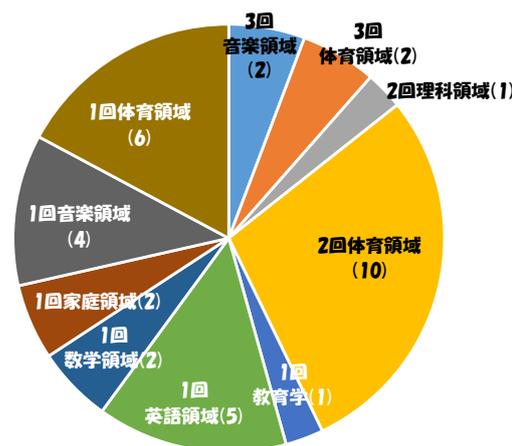


Fig. 1 2017年度受講生の内訳
(括弧内は人数)

1. スポーツクラブ指導入門 前半戦 (第1回～5回講義, 第6回実技)

第1回～5回の講義では、実習のフィールドとなる「京都教育大学地域スポーツクラブについて」、「学校体育や運動部活動について」、また「スポーツ指導に関する資格制度について」など、4名の教員が異なるテーマで講義を行いました。さらに第6回では、実技を交えた講習を実施しました。

第1回 4月26日(水) 体育スポーツ指導力養成プログラムについて、KYO2クラブの成り立ちと実態
(担当教員: 林 英彰, 体育学科)

第2回 4月26日(水) 発育発達期の身体的特徴と運動指導 (担当教員: 小松崎 敏, 体育学科)

第3回 5月10日(水) 小学校体育、運動部活動の意義 (担当教員: 小松崎 敏, 体育学科)

第4回 5月10日(水) スポーツ指導に関する資格認定制度 (担当教員: 小山 宏之, 体育学科)

第5回 5月17日(水) 学校現場における運動部活動の現状と課題 (担当教員: 海原 洋, 客員教授)

第6回 5月17日(水) スポーツ指導につながるウォーミングアップ活動

(担当教員: 福田 博, 北川 順一, 客員教授)

各授業の内容を受け、学生は様々な観点から体育・スポーツについて考え、レポートにまとめています。第5回の授業レポートから学生の声を紹介します。

授業レポートより
音楽領域
1回
Nさん

Q. 小学生のスポーツ指導で最も大切だと思うことは何か?

小学生期のスポーツ指導で最も大切だと思うことは、一人ひとりが活動を楽しめることである。私は体育の授業などを心から楽しめていなかったからである。私はスポーツがあまり得意な方ではないことから、運動部員が多かった私のクラスではスポーツができないのがよく目立ってしまった。特に球技ができなくて、チームプレーで迷惑をかけることが多く、迷惑をかけるのが怖くて、心からスポーツを楽しめなくなっていた。(中略) スポーツができる人、できない人、全ての人が楽しめるような環境づくりを教員はしていかなければならない。スポーツには他人を思いやる気持ちなどが大切ということから、苦手な人が失敗しても次がんばろうという環境を作っていかなければならない。

2. スポーツクラブ指導入門 後半戦 (KY02 クラブ4 教室における指導実習)

第7回目以降は受講生を4つの小学生スポーツ教室に配当し、各教室で見学1回、実地指導2回の計3回の実習を行いました。以下に、各教室での活動の様子を写真と学生のレポートを交えて紹介します。



バスケットボール教室 (参加学生9名、担当教員：北川順一 客員教授) 第1回 (見学) 5/24, 第2回 (実地1) 5/31, 第3回 (実地2) 6/7

授業レポートより

家庭領域
1回
Nさん

スポーツが苦手で最初は不安しかありませんでした。周りはスポーツができる人だらけだったので、技能の面で特に差を感じていました。しかし、子どもたちは優しく受け入れてくれて、中には教えてくれる子もいました。3回で気づいたのは、自分で指導者=完璧にできると思っていて、できないことにすごく落ち込んでいましたが、そうである必要は必ずしもないということです。今回、バスケットボールの指導をすることを前々から知っていて、その上でKY02クラブに挑んでいます。中・高の部活の指導では何に当たるかわかりません。専門分野以外でも指導するやり方(一緒に取り組むこと)を教えてもらったような気がします。インターンシップでももっと取り組んでいきたいです。



授業レポートより

音楽領域
3回
Mさん

私は球技の中でもバスケットボールが苦手で、正直不安で押しつぶされそうでした。見学の時もスタッフの方と楽しそうに学ぶ子どもの姿に、私にもできるのだろうかと思っていました。ですが、自分の中で毎回の目標を持ち取り組むことで、新しい発見、練習方法や指導ポイントといった技術面だけでなく、子どもの注目の集め方や子どもを飽きさせない働きかけなど、授業に役立つ技術を学ぶことができました。その中でも一番感じたことは、教師の技術を見ているより前に、子どもは気持ちを見ていると思ったことです。実際技術のほとんどない私でも、回数を重ねるごとに子どもとコミュニケーションが取れて、楽しんでバスケットをすることができました。今回は最初の段階から「先生みてー！これできるねん！！」などと子どもから話しかけてくれたり、「～できひん・・・」と言って教えてと伝えてくれたりする子どももいました。その姿を見て嬉しかったし、どんなに不安でも子どもにその素振りを見せてはいけないし、どの時でも楽しく接し、いけないことをした時はしっかり注意する。これを繰り返すことが基本にあり、信頼関係を築くことができ、子どもが助けてくれることもあると思いました。上記のことが私のこれから教育する中で一番大切にしたいと決めたことです。



サッカー教室 (参加学生9名、担当教員：福田博 客員教授) 第1回 (見学) 6/1, 第2回 (実地1) 6/8, 第3回 (実地2) 6/15

授業レポートより

数学領域
1回
Tさん

私は将来小学校の先生になりたいと思っています。好きな科目である体育の授業をする時に、体育の楽しさを伝えることができる授業ができるようになりたいと思い、「スポーツクラブ指導入門」を履修しました。

初めはサッカーの経験がなかったので不安でしたが、技術面以外で私たちができる指導はたくさんあることに気づきました。子どもたちの行動や発言にはできるだけ全部反応すること、答えはすぐに言わずに質問して試みる、思ったことはとりあえず言うことなど、3回の短い実地でしたが、サッカー部の人や先輩方から学ぶことは多くありました。子どもたちと関わる中で、少しずつですが子どもたちに対しての声かけができるようになり、自分の変化を実感することができました。私自身も90分間を楽しく過ごすことができました。「スポーツクラブ指導入門」にとどめることなく、次に、次にと進み、この貴重な経験を生かしていきたいと思えます。

最初は子どもたちと上手に関わっていくことができるかな...と不安を持っていましたが、福田先生の「失敗してもいい」という言葉を思い出しながら、子どもたちに関わっていききました。実地1回目の時、子どもたちと距離があるように感じていました。しかし、2回目でゲームをしていた時、子どもたちがかなり多くのパスを自分に出してくれたり、ハイタッチをしてくれたりなど、子どもたちとの距離が縮んだとすごく感じて、とても嬉しかったです。こういう喜びや嬉しさがあるからこそ、「教える」、「子どもたちと関わる」ということ、教員という仕事はやりがいがあるのだなと思いました。(中略)

また、この3回の間だけでも、子どもたちの成長が目に見えて感じられました。これだけ成長するのは、教える側として楽しくてやりがいがあるものであると同時に、子どもたちも「ちょっと上手になった」と感じれることはとても良いことだと思います。教える側の教員、子どもたちがお互いに成長し合える、刺激し合える環境が1番いいなと思いました。将来、教員になれたら、子どもたちから学ぶことがたくさんあると思います。しっかり周りにアンテナをはって、たくさんの刺激を受けて、子どもたちと成長していける教員になりたいと思います。この教室に参加して、このように思えたことは本当に良かったです。



陸上教室 (参加学生8名, 担当教員: 杉岡憲二 客員教授)

第1回 (見学) 5/28, 第2回 (実地1) 6/11, 第3回 (実地2) 6/18

小学生と関わる機会が欲しいと思っていたので、すごく自分のためになりました。実地1では、子どもたちとの遊び方、声のかけ方が全然わからず、逆に楽しく遊んでいるのに自分が加わっていいのだろうかという事も考えてしまいました。先生方と楽しく遊ぶ子どもたちを見ていると、ただ立って子どもたちを眺めてしまっている自分がすごく嫌でした。人見知りをしない子どもは、初めての自分でも積極的に声をかけてくれました。それは嬉しかったのですが、その他の子にはどのように声をかけようか、どうしたらチームみんなと交流できるのかを考えました。また、あまり楽しめてなさそうな子や陸上が苦手の子のサポートはどうしようかと考えました。そうして、自分自身で課題を作っていくことによって、自分の中の積極性がどんどん上がっていくことができました。(中略)

また、円の書き方や小学生にはどの重さを使えばよいか、同じマーカーでもメニューによって使い方を変えたり、実際に経験しないとわからないことを知ることができました。子どもとの関わり方はもちろんですが、指導者の立場として、計画性や練習メニューを考えたり、メニューの順番であったり、注意の仕方、子どもたちのやる気の出し方なども学ぶことができました。何より1番子どもたちとの関わりで難しいのは「叱ること」だと改めて感じました。子どもとの距離感も気を付けてはじめをつけさせていけたかなと思います。

実地2では、しきってメニューを進めることもしました。(中略) 実際にしきる場になると、子どもたちに注目してもらうにはどうしたらいいか、どのくらいのテンポで話すべきか、たくさん考えさせられました。(中略)

コメントカードでは子どもたちの声が聞けたし、親御さんへのコメントはすごく悩み言葉遣いにも気をつけました。これも教育実習まではないだろう貴重な体験でした。難しく、辛かったけれど、とても有意義な実地でした。





体操教室（参加学生9名、担当教員：海原洋 客員教授）

第1回（見学）7/5、第2回（実地1）7/12、第3回（実地2）7/19

英語領域
1回
さん

授業レポートより

教育大に入学して、現場に出て実際に児童と関わるのは KY02 クラブが初めての経験でした。初めの頃は児童たちのパワーに圧倒されてしまいましたが、先生方に「どんどん関わったら良い」と言ってもらって、とても良い経験をさせてもらいました。自分がその場で言ったことが、直に児童に届いて、児童の動きを左右すると思うと、自分の発言には責任をもたないといけないと、今回改めて気づかされました。体育の授業だけでなく、教員になれば集団を動かすことも多く、特に体育ではケガをしてしまうこともあるので、色んなことに注意して、対応の仕方まで考えたうえで、児童と接しなければいけないと思いました。現場に出て初めて気づくこともあるので、教員になる前にこういった機会を与えてもらって、とてもありがたいと思います。



体育領域
2回
Sさん

授業レポートより

体操教室の見学・実地を経験して、指導力のなさを実感した。私自身、KY02 クラブの陸上教室を運営しているため子どもたちへの対応は慣れているが、体操に関する技術的知識がないため、指導に非常に苦戦した。

低学年は基礎的な活動が多いため、体操の経験がない私たちでも指導することができたが、高学年は高いレベルの種目に取り組んでいる子どもたちも多く、自分の指導力のなさを実感した。しかし、スモールステップをふませて恐怖心をとりのぞくこと、先生がサポートして成功を導いてあげることはどちらの学年でも同じであった。体操教室ではとても多くの工夫がなされていたので、それを覚えておいて、自分自身が指導者になる際に活かしていきたい。



3. 「学びの振り返り」から「学びの共有」 ～討論会から研究発表会～

各教室2グループの計8グループに分かれ、7月26日（水）5限に研究発表会におけたグループ討論会（右写真）を行い、最後に8月2日（水）5・6限で「見学・実地指導での学び」をテーマとした研究発表会（下写真）を行いました。各グループの視点でまとめた10分間の発表では、「子どもに応じた指導内容の工夫」、「指示を的確に伝える言葉遣い」、「効果的な補助器具とその指導法」「運動嫌いな子どもへの指導」など、多様な学びが紹介されるとともに、質疑応答では質問者と発表者が互いに自身の経験を振り返りながら討論が進み、充実した学びの共有が行われた発表会になりました。最後に、昨年度この授業を受講し、インターンシップⅠ・Ⅱを終えた2回生の中村さん（数学）、西村さん（美術）から（右下写真）、プログラムを終えて感じる自身の成長、かけがえのない経験について話をしてもらいました。

今年度も多くの学生がインターンシップに進みます。1年間のインターンシップをへて、成長した姿になり、後輩たちの背中を押してくれることを期待しています。

研究討論会 @ 未来教室



インターンシップ修了生より
（左：中村さん、右：西村さん）

